

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	小規模校の特性及び小中一貫教育の利点を活かした教育を進展し、知・徳・体・食のバランスのとれた生徒を育成する
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自 評	己 価	関係者 評 価	学校関係者評価のコメント
知 育	基礎・基本を確実に身に付け意欲的に学ぶ生徒の育成 1 NRT等の結果の分析をもとに、指導内容の焦点化と指導方法の改善を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着と思考力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 考える力、表現力の育成について、職員の意識が高くなってきており、授業においても、意識して場面を設定するようになってきた。 ○ NRT 検査や実力テスト、国や県の学力調査等の結果から、学年を追うごとに学力が徐々に向上している。 ○ 学年の実態が異なり、それに応じた手だてをとっているところである。 	4. 0	4. 0		<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮日こども新聞で作品が多数掲載され、朝自習の時間の有効活用の成果がみられる。今後もそれぞれの表現力を高めるため、継続的な指導を要望する。 ○ 学年が増すごとに、学力向上の成果がみられる。 ○ 学年が上がるごとに結果がついてきているので、問題ないと思いますが、目標設定を決め競争力がもっと身に付けば、さらに結果が出てくると思います。
	2 家庭学習の手引きや学習のきまりを活用し、学習習慣を確立させ、個別指導を徹底し、意欲的に学習する生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人に応じた個別指導を、全職員で取り組もうという意識や体制ができてきた。また、自宅学習に対する細かな指導もなされた。 ○ 生徒は授業態度もよく、昼休み等に自発的に質問や勉強に来る姿も見られた。 ○ 朝自習を利用した、俳句、短歌、作文の創作活動に継続的に取り組み、表現力育成や達成感の高揚に効果的であった。 				
徳 育	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 1 基本的な生活習慣の確立のために、須木地区版「西諸っ子の約束」を活用し、平均 4 以上の生徒の割合が 8 割以上になることをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「西諸っ子の約束」の生徒の自己評価は高く、低い項目に関しては、生徒会の重点目標として取り組んだ。 ○ 規則や心得をよく守り、落ち着いた学校生活をおくることができた。ノーチャイムも定着した。 ○ あいさつや授業の終始での立腰はよく行っているが、今後は意味を考えた実践につなげていきたい。 	3. 0	3. 2		<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動は、各方面での積極的な貢献がみられ、地域とのつながりを感じる。 ○ あいさつ、立腰の意味を理解し、地域におけるあいさつを行っていくと地域とのつながりは増すと思う。 ○ 全ての項目で年々良くなってきていると思います。後は、やらされている、もしくは、仕方なくといったものも多少はあると思うので、学校の評価にもあるように、やる意味をしっかりと教えてもらいたい。
	2 読み聞かせや読書活動を推進し、豊かな心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館協力員による読み聞かせ、図書の整備は計画的に行った。今後、読書量を増やす手だてを考えたい。 				
	3 地域の行事等への参加と協力を行い、地域を知り、地域に貢献する態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花火大会のボランティア活動、ふるさとプロジェクトへの参加、ほぜ祭りへの参加、3年の福祉活動等に積極的に取り組んだ。また、生徒会主催のボランティアカードの取組も行い、地域に貢献する意識の高揚が図られた。 				
体 育	すすんで運動し、体を鍛える生徒の育成 1 新スポーツテストを年 2 回（5 月、1 月）に実施し、5 月実施時に設定した個人達成目標を、6 種目以上達成する生徒が 8 割以上となることをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新スポーツテストは、設定目標が高く達成率は低かったが、3 年は毎日カップコンテストで努力賞を受賞した。 ○ 全体的に自らの体力向上の意識は高く、2 回目の新スポーツテストでは、ほとんどの生徒が 1 回目の記録より向上した。 	3. 5	3. 8		<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数での部活動は大変苦慮されると思うが、県大会等への生徒の自信へとつながっていると思う。 ○ 少人数ではあるが、しっかりとした目標があるので、部活動を頑張っている姿をよく見かけます。
	2 保健体育の指導と部活動や生徒会活動、食育を関連させ、生涯にわた	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新スポーツテストの結果を生かし、体育の時間に体力等全般を向上させる、アップトレーニングを取り入れて 				

	<p>って自らの体力向上や健康の保持増進に努めようとする態度や実践力の基礎を養う。</p>	<p>実践している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の取組は熱心で、少人数ではあるが、各種大会に参加したり、県大会出場を果たしたりした部活もある。 ○ 生徒会活動の「みんなで遊ぼう」の企画は、親睦と体力向上を図る場となった。 ○ 今後、運動器検診等を継続し、メタボ、ロコモなどの把握と、予防の方策を考えていきたい。 			
食育	<p>望ましい食習慣を身に付ける生徒の育成</p> <p>1 食物の大切さを再認識させるために、米作りを中心とした勤労生産活動を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校との連携による米作り活動は、田植えから収穫祭までを通して、望ましい勤労観の育成、人や自然への感謝の気持ちの醸成、「食育」の推進のために有意義であった。 ○ 今後の児童生徒数減を考えながら、米作りの取組の在り方を考えていきたい。 	3. 5	3. 8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校職員全体で、食に関する項目に取り組んでいただき「弁当の日」を取り入れることで、更に、食への感謝の心が生まれると思う。 ○ 生徒数が減少し、米作りにおける負担は増えると思うが、小学校と連携し、今後も継続してほしい。 ○ 今や当たり前のようになってきたお弁当の日も、更に進化したものになり感心しました。
	<p>2 食に関する意識の向上や食への感謝の気持ちを育むため、年間3回の「お弁当の日」を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ お弁当の日は、毎回目標を設定し、養護教諭と栄養職員の連携のもと、事前・事後指導を行い、「食育」の推進のひとつとして大いに役立った。 			
	<p>3 養護教諭や栄養職員等による食に関する授業を、全学年年間3回以上実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養職員や養護教諭と学級担任の連携による、食に関する授業を行い、食に対する興味・関心を高めることができた。 			
その他	<p>教職員の資質の向上を図る</p> <p>1 校長自らが「学び」の姿勢を示しながら、職員の新たなアイデア創出を奨励し、学校運営への積極的な参画を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「校長室便り」を継続的に発行した。また、職員のアイデア創出を奨励し、いくつか新しい取組が増えた。 ○ 次年度へ向けて、職員の問題意識や具体的アイデアを集約することができた。 ○ コンプライアンスに関する研修を工夫して行い、職員の意識を高めることができた。 	3. 0	3. 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生方の熱意は、生徒との信頼につながっていると思う。学力向上における先生方の努力は大きな成果となって現れている。 ○ ただでさえ、先生方は大変なのに小中一貫教育の推進は大変ご苦勞をなさっていると思います。今後ともよろしくお願いしたい。
	<p>2 全職員による問題解決的な学習による研究授業を実施し、授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業を全職員2回実施し、事後の研修会をもち、職員の授業力向上につながった。 			
	<p>3 小学校の授業参観、小学生への授業を行い、小中一貫の意識高揚と指導力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中合同研究会の計画に沿って、相互の授業参観、研究授業を行ったり、体験入学等で小学校高学年への中学校教員による授業を実施したりして、小中一貫の意識を高めることにつながった。 			
	<p>4 OJTを進展し、若手教職員の資質向上に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ OJTは職員間では行われており、若手職員の資質向上の一助となった。 			

<p>次年度の方向性についての校長所見</p>	<p>本年度の教育活動は、職員一人一人の意識の高さと生徒の素直でまじめな資質が相まって、おおむね目標を達成できたと考える。合わせて、保護者や地域の皆様のご理解やご支援をいただいたことで、内容の充実が図られたと考える。</p> <p>次年度は、4つの重点目標（知育・徳育・体育・食育）のもと、「学力向上」と「体力向上」を中核におき、本年度の反省（職員、保護者、生徒）と職員の問題意識の集約及び学校関係者評価を踏まえ、以下の方向性で学校経営を推進したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次年度は特別支援学級が新設され5学級になるが、生徒数が27名と減少する。特別支援教育の充実と生徒数減や生徒の実態に応じた適切な指導を行う。 2 教育活動全体をキャリア教育の視点を意識し、生徒が「何のために勉強するのか」や「自分の社会的役割は何か」などを意識できる教育活動を行う。 3 分かる授業を行うため、研究授業を行い授業力の向上に努めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を意識した授業の構築に努める。 4 特色ある学校づくりを模索し、「須木中ブランド」の確立に努める。 5 あいさつ運動やボランティア活動など、「地域に貢献し、地域に発信する」教育活動を模索する。 6 文化・芸術関係等、「本物」に触れる機会を教育課程の中に位置付ける。
--------------------------------	--